

高知県教育委員会 会議録

平成26年度第10回教育委員協議会

場所：高知県庁 正庁ホール

(1) 開会及び閉会に関する事項

開会 平成26年7月24日(木) 18:30

閉会 平成26年7月24日(木) 20:40

(2) 出席委員及び欠席委員の氏名

出席委員	教育委員長	小島 一久
	委員	久松 朋水
	委員	竹島 晶代
	委員	八田 章光
	委員	中橋 紅美
	委員(教育長)	田村 壮児

(3) 高知県教育委員会会議規則第9条の規定によって出席した者の氏名

高知県教育委員会事務局	教育次長(総括)	勝賀瀬 淳
〃	教育次長	中山 雅需
〃	教育次長	永野 隆史
〃	参事兼教職員・福利課長	彼末 一明
〃	教育政策課長	有澤 功
〃	高等学校課課長	藤中 雄輔
〃	高等学校課企画監	坂本 寿一
〃	教育政策課課長補佐	中平 貢正
〃	高等学校課課長補佐	高野 和幸
〃	教育政策課チーフ	溝渕 松男(会議録作成)
〃	教育政策課主任指導主事	葛原 彩子(会議録作成)

(4) 教育委員長の依頼により出席した者

高知西高等学校校関係者 保護者代表(4名)

校友会代表(5名)

国際交流推進会代表(2名)

【冒頭】

委員長 教育委員協議会を開催する。

教育長 (あいさつ)

本日は県立高等学校再編振興計画についての今年度、第10回目の協議会となります。高知西高等学校の関係者の皆様には、5月31日以来二回目のご出席をいただいております。大変お忙しいところ、また、暑い中お集まりいただき、まことにありがとうございます。

前回、皆様にご出席いただきました際には、グローバル教育に対する前向きな取組について評価をいただいた一方、「検討する際は、高知南中高校の方々のご理解を得てほしい」とのご意見をいただきました。

その後、高知南中学校・高等学校の関係者の皆様から2回目にご意見をお聞きした際に、統合の仕方について、より統合が実感できる案を検討して欲しいとのご意見をいただいております。また、他の方からも、統合に向けて高知南中高校の規模が段々と縮小されていくことに対する懸念や、教育環境に特段の配慮を求める意見などもあり、県教育委員会といたしまして、たたき台以外で、そのようなことに配慮でき、かつ、高知西高等学校の関係者の皆様にもご理解いただける案がないか検討をしてみました。

本日は、まず、県教育委員会から、統合の仕方の別案についてお示しさせていただいた後に、皆様からご意見をお聞かせいただきたいと考えておりますので、よろしくお願ひします。

【協議 県立高等学校再編振興計画について（高等学校課）】

○高等学校課企画監 説明

○高知西高等学校関係者 国際交流推進会代表との意見交換

国際交流推進会代表	確認である。これから、中高一貫校の高知西高校として目指す方向は、偏差値重視の進学校ではなく、次世代のリーダーを育成し、社会に出て広く活躍できるグローバル人材の育成と受けとめているので、そのような方向で進めてもらいたい。結果的に海外の大学に進学できる進学校になるかもしれないが、進学校をつくることを目指すのではない方向でいってもらいたい。中高一貫校の中学校レベルの学習の進め方については、私立の中学校のように中学2年生の段階で中学3年生の内容を学習し、中学3年生の段階から高校1年生の内容を学習し、高校から入学した生徒が高校1年生の段階から学習についていけないような教育をされると公平でない。そのような部分は公立で行う公平さを守って欲しいと思う。これは一つの要望である。 再編振興計画について触れていきたい。補足資料1では、高知西中学校の60名について、グローバル教育科への進学を見据えた形の選考をするとのことであるが、一番心配されるのは、中学校を受検する小学校6年生の子どもたちは、自分の意志で受検するのではない可能性が高いということである。中学3年間通じて学んだことを伸ばしていきたいとのことであるが、高校進学時に子ども
-----------	--

<p>教育長</p>	<p>たち自身が考え、自由にグローバル教育科と普通科を選択できることを可能に していただきたい。それが公立の学校としての姿ではないかと感じている。中 学校からは入学できなかったが、高校から入学したいと考える子どもたちがい ると思う。県内を広域で考え、家庭の状況、通学の状況などで、中学校の段階 では地元の公立中学校で学んだが、高校からはグローバル教育を学びたいと思 う生徒に対する門を狭めないで欲しいと思う。内進生、外進生の区分けでなく、 公平な選考をしてもらいたい。これはあくまでも要望である。実際は、通常 の中高一貫校では、中学校に入学すれば高校へはスライドで進級できる。しかし、 一定のレベルに達していないと高校に進学できない方法を必ず取り入れても らわないと全体が共倒れとなる。本当に高いレベルを目指すのであれば、中学 校に入学したら高校3年間までが保障される点を見直してもらいたい。この教 育を打ち出したことは、高知県の教育にとって本当に素晴らしいことであり、 私立ではなく公立でやることに対し、ありがたいことだと思っている。これを 実現してもらえば、県民にとってすごいことだと思うので、ぜひ進めてもら いたい。進めるにあたっては、子どもを重視し、子どもたち自身が学んでいき たいと思える環境をつくってもらいたいと思う。</p> <p>前回、中学校ができるのであれば寮を完備して欲しいと要望した。これは親と しての提案であったが、難しいとは思っている。また、母親としての思いを聞 いてもらえるとしたら、中学校段階の給食を考えて欲しい。郡部の中学校では 給食をやっている。可能であれば中学生だけでも給食ができないか。郡部の中 学校ができており、高知市内でも取り組んでいる中学校もある。できるか、で きないかは別としても、食は大事なことではないかと思う。食生活の乱れが、 学習の乱れにもつながると思うし、母親として生活習慣は大切だと考えてい る。国際交流推進会としての意見ではなく母親としての意見として聞いてもら いたい。</p> <p>部活動の充実のことであるが、現在、高知西高校では、文武両道で部活動が充 実している。せっかく新設するのであれば、要望の一つとして、弓道場をつ くってもらいたい。弘徳館が移転し、遠くなったので高知西高校から通うことが 難しくなった。中高一貫校の部活動を伸ばすのであれば弓道場をつくってもら えればと思う。部活動の充実に関する要望の部分であるが考えてもらえたらと 思う。</p> <p>進学校を目指すのではなくグローバル教育で引っ張っていく学校をとの話で あったが、柱としては、グローバル教育で高知を引っ張っていく学校としたい。 併せて進学拠点校としての位置づけもあるので、しっかりした実績を上げて行 く取組をしていきたいと考えている。カリキュラムについては事務局から回答 する。</p> <p>寮や給食に対することについては、ご意見として受け止め検討させてもら う。結果はどうなるか分からないが検討する。弓道場の件についても同様に検討 したい。今、いくつかの学校で利用している共同グラウンドを高知西高校専用の</p>
------------	---

事務局	<p>グラウンドとすれば、かなりのスペースができるので、スペース的にはそのような設備も可能になるのではないかと思う。いずれにしても検討していく。</p> <p>中学、高校のカリキュラムのことに答えさせてもらう。グローバル教育の柱として考えているのは探究型の授業である。特に、高校での国際バカロレアコースは、国際バカロレア機構が設定している指導計画のもとに授業が進められていく。その中で中心になるのが、どうしてこうなるのかを生徒同士が討議することであるので、中学校段階からそのような教育に慣れていく必要がある。中学校段階から単に知識を詰め込むのではなく、どうしてこのような法則が成り立つのかなどをお互いがしっかりアイデアを出しながら学んでいくことになる。基本的には先々進めるのではなく、一つ一つの単元の原理原則を理解し、さらに活用する能力を大切に活用重視の授業にしていきたい。また、家庭学習も非常に大事になってくる。今までは、大学の入試のために、授業の中でも大学入試の練習問題に時間を取ることに、進学校は軸足を置いていた。新しい学校では、考え方を整理していくことにも時間を取り、課題論文をしっかりと仕上げ、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身に付けて行く。世界史の授業を英語で行うなど、英語ともう一つの教科を英語で行うことを考えているが、一定の英語の力もある。そのことを見据えて中学校段階から基本的な英語の力をもう少し身に付けられないかと考えている。大学入試センター試験で問題が少し難しくなると、高知県の英語の平均点はぐっと下がってしまうが、問題が難しくなっても、全国レベルに達することができるような形につなげていきたい。私立学校のように先々進む学習はではない。しかし、このような学習が合わない生徒もいる。自分の意見を積極的に発言し、相手の気持ちを受け止めていこうとすることが向いておらず、自分でコツコツやりたい生徒も当然いる。高校に上がる際には、そのような生徒については普通科に変更できるようにすると、公立中学校から入ってくる生徒にもグローバル教育科への道を広げることになる。グローバル教育科は、英語教育に偏ったものではなく文系でも理系でも対応できる。今の普通科と大きく変わるのではなく、学習の仕方が変わるものである。中学校から進んだ生徒にはグローバル教育科に進んでもらいたいが、学習スタイルが合わない生徒は普通科に変更してもらうことも考えている。</p>
国際交流推進会代表	<p>心配はないと思うが、絶対やり切ってもらいたい。一定の学習レベルに達する生徒が少ないからといって、レベルを下げるのであれば、国際バカロレアコースをつくる意味が全くなくなるので、しっかりやり抜いてもらいたい。この計画を楽しみに期待しているのでよろしく願います。</p>
委員長	<p>グローバル化は一つの時代の流れで、ボーダレス化で国境がなくなってきている状況にある。その意味で、県下の高等学校全体でグローバル化を推進していく必要がある。その中で高知西高校が県下の高等学校のリーダー的な存在として頑張ってもらおうという計画である。</p>

○高知西高等学校関係者 校友会代表との意見交換

校友会代表	<p>私は公立高校を卒業しているが、私立の学校に行きたいという気持ちがあった。学校の先生に、私立学校に行くには塾に行って、勉強して成績がとて良くと、家庭にお金がないと行けないと言われ、私立学校に行けなかった経緯がある。私立学校は学力が高く、公立学校が低いということが50年以上続いている状態である。今も成績が良く、お金があれば私立学校に行く状況がある。今、甲子園を目指して高校球児が試合をしている。高知西高校が甲子園に行けるかとの思いがあり、球場まで応援に足を運んだが1回戦で負けた。今日、私立高校の試合があった。そのチームはベンチ入り選手20名以外にも応援席がいっぱいになるぐらい部員がいた。今年の出場チームの中には4校が連合してやっと試合に出られるような状況もある。本当に矛盾があるなと思った。また、指導力とはすごいものだなと思った。橋原高校が高知商業高校と試合をし、善戦した。指導者の力が本当にすごいものだなと思った。これは教育効果である。少ない部員の橋原高校が高知商業高校と対等に試合をしていたことは素晴らしいことである。</p> <p>本題に入って行きたい。資料をたくさんもらっているが、1月27日に配布された資料はまだ生きていると思うが、「県立高等学校再編振興計画基本的な考え方」「振興計画の策定について」の平成24年度までの取組状況で、平成15年に再編計画を策定して、平成16年度から平成25年度までの10年間で「特色ある学校づくり」と「県立高校の適正な規模と配置」に取り組んできたとして、大桁高校と仁淀高校の統合をあげている。平成25年2月の県立高等学校再編振興に関する報告書をもとに、平成25年度になって事務局案を協議して、12月に協議会を始め、今年の1月27日に急遽このような案が発表され、新年度になって高知西高校関係者も出てきて意見を言うて欲しいということで何回か会を持ち、急に話が進んでいる。今後のスケジュールで10年の期間を5年、5年と区切り進めて行くということで、新年度になって慌てている。子どもが8月31日に夏休みの宿題を慌てて1日で仕上げているような話である。慌てた話で高知西高校と高知南中高校がいがみ合う様な形の会になっているように感じる。高知西高校は、高知南中高校の関係者とけんかして大勢で怒鳴り合い、憎しみ合うような状況になりたくない。そこまでして高知西高校が良くなる必要はないし、高知南中高校の立場も分かる。何か、教育委員会が慌てているような気がする。結果を求め過ぎているような気がする。津波も明日にでも来るような感じであり、生徒の気持ち、保護者の気持ちが分かっていないのではないか。高知南中高校の下級生がいない期間を短くするようなことで別案を示したようであるが、高知西中学校の1年目は2年生、3年生がいない状態ができる。それならば同時にまとめて同じ教育を始めてはどうか。示された案では、騙されているような気がする。統合したら弓道場ぐらいはつくってもらえると思うが、けんかをせずに円満な話し合いで統合ができるようにしてお願いする。決して声を荒げて、数の力で言い合うような統合にしてもらいたく</p>
-------	---

<p>校友会代表</p>	<p>ない。</p> <p>学校の在り方を尊重したうえで再編を進めてもらいたい。今回の再編については課題がたくさん残っている。高知県教育委員会においては、高知南中高校関係者との協議を整えてもらうことが、今回の話を進めて行くうえでの大前提であるので重ねてよろしくお願いする。</p>
<p>教育長</p>	<p>気になることがある。先日、高知新聞の報道でもあったが、論議がかみ合っていないと感じる。統合という言葉が、それぞれの思いや立場によって解釈が異なっている。それぞれの思いによって話が違ってくる。何度かお聞きしているが、再度、教育長に再編振興計画における統合とはどういう意味か確認したい。統合ということで中身はこれまで説明してきた形で考えている。聞きたいのは、校名のことであろうと思う。それについても、冒頭や一昨日の高知南中高校の関係者にも話したように、また、須崎高校と須崎工業高校の協議会でも申しあげたように、今回は実質的な中身のことについて統合についての協議をお願いしたい。校名、校章に関しては、両校の関係者は強い思いをもたれていると思うので、統合が確定後、話を十分したうえで決定させていただきたいという考え方である。</p>
<p>校友会代表</p>	<p>たたき台の件である。高知南高校の最後の卒業生が出た後に統合する話であったが、あの図式では実質的には高知南高校の廃校である。これまでの話で解釈しているのは、これまで行ってきた高知西高校の英語教育と国際交流の活動に、高知南高校の教育がソフトとして加わり、そして新たなグローバル教育に発展させていくことが高知県教育委員会の行う今回の県立高校再編振興計画だと思っている。そのような理解でよろしいか。</p>
<p>教育長</p>	<p>はい。</p>
<p>校友会代表</p>	<p>高知南中高校からは校名が変わらないと統合にならないということであったが、我々としては、高知西高校の英語教育、これまでの国際交流の活動の中に高知南中高校のソフトの部分が加わって、新しい学校をつくる。については、高知西高校の方は、現状のままで行くという前提で考えているので、県教委の方もその方向で十分に協議し、内容を知らせてもらいたいと思う。</p>
<p>教育長</p>	<p>内容的にはそのような統合となる。加えて、統合と言うからには、高知南中高校の関係者の思いを引き継ぐ部分もあると思う。そのような意味でも十分な協議をしていきたいと申し上げた。結果としてどうなるかは、予断を挟まずに検討していただきたい。</p>
<p>校友会代表</p>	<p>それぞれの立場で解釈が異なってくる。小さな違いが、大きな違いになる。校名のことを置いて統合の話を進めることになると会長が心配していたことになりかねない。あくまでも教育委員会と高知西高校との協議は、教育委員会と高知南中高校との協議を整えたうえで進めてもらいたい。言葉を大事にしないといけない。少しの違いが、将来大きな齟齬をきたすことを心配している。我々と同じような言葉で、高知南中高校の関係者、特に保護者、校友会の方々には同じ解釈ができる説明をしてもらいたい。そうでないと嫌な場面に遭遇するか</p>

<p>教育長</p>	<p>もしれない。その点を危惧している</p> <p>昨日の高知南中高校の協議会についての高知新聞の記事には衝撃を受けた。記事を読ませてもらうと「もし統合するのであれば、(高知西高校の)校名、校歌を変えて欲しい。そうでなければ南を侮辱したことになる」「絶対に校名、校歌を変えると確約してほしい」とある。それぞれの立場を尊重しながらも、県教教育委員会が冷静に話ができるように配慮をして欲しい。</p> <p>先日の会では、新聞内容の様な発言が出ていた。それについては、基本的に先ほどと同じ内容で答えている。校名を変えらることを確約してくれということには、予断を挟むような回答はできないと伝えている。</p>
<p>校友会代表</p>	<p>要となる県教育委員会がしっかりした調整、意見のすり合わせをしてもらわなければならない。我々のスタンスとしては、我々は主ではなく、県教育委員会と高知南高校の話が決まった後で高知西高校に話をもってきてもらいたいと思っている。ご理解いただきたい。</p> <p>もう一点心配されることであるが、先日の新聞記事により高知西高校の生徒が少人数であるが動揺している。高知西高校が無くなるのではないかと、また、校名、校歌が変わる事に対する心配をしている。保護者も心配している方がいる。これまで高知南中高校の生徒への配慮をお願いしてきたが、高知西高校の生徒にもアンテナを張り、これ以上動揺が広がらないように配慮をお願いしたい。</p>
<p>教育長</p>	<p>理解してもらいたいのは、大きな目的は高知県の高校の教育環境をどのようにして充実させていくかである。その具体的な方策として、高知南中高校と高知西高校の統合をお願いしている。そこの当たりを理解して欲しい。そのうえでより良い学校をつくっていきたいと考えている。校名、校歌は大事なことである。それぞれの学校で大変な思いを持たれていると思う。しかし、何を優先して検討するかと言うと教育環境の充実であり、校名、校歌については、その方向が固まった後に両校の関係者の思いを聞きながら検討をしていきたい。</p>
<p>校友会代表</p>	<p>教育環境という話であったが、グローバル教育を取り入れた新たな併設型中高一貫校をつくるのであれば、教育理念としてしっかりしたものを持ってもらいたい。以前に高知西高校の保護者からの要望にもあったが、「理念なきところに人は育たない」と思うので、どのような教育環境のもとで教育を行っていくか、どのような人づくりをしていくのかをしっかりと議論してもらいたい。</p>
<p>校友会代表</p>	<p>三里小学校、三里中学校、高知東工業高校、岡豊高校、高知小津高校でPTAの役員をしていた。すべて公立学校である。今日、前にいる人は全員私立学校出身かもしれない。我々は高知西高校の校友会として高知西高校が大切であるので、今日この場に来ている。高知新聞社の記者の書いた記事で「もし統合するのであれば、校名、校歌を変えて欲しい。そうでなければ南を侮辱したことになる」とある。「侮辱した」という記事は、いかにも高知西高校とけんかをさせるような記事である。この大事な時期にこのような記事を出すのは高知新聞も勝手過ぎる。校名、校歌が変わるのであれば高知西高校も統合に反対になる。このような記事を出されると統合案に対して反対になり、高知南中高校は</p>

<p>校友会代表</p>	<p>廃校にしなさいということになる。高知追手前高校と高知小津高校や高知丸の内高校との統合の話は全く出てこない。</p> <p>それと中学校の問題である。旭中学校、朝倉中学校、西部中学校にはお構いなしなのか。近くに市立中学校があるがそれは無視しておいて、高知西中学校へ行きなさいと言っているようなものである。あなたたちの数名は私立学校を卒業していると思うし、高知西高校の校友会に関係なければ勝手なことを言えると思う。高知追手前高校、高知小津高校には言えないが高知西高校なら歴史が浅いから言えるというような、高知西高校を侮辱したような統合問題が降ってわいてきている。統合などやめて、今までの高知西高校で良い。なぜ高知南中高校の保護者が「侮辱している」と言っているのか。保護者は卒業生ではない。校友会が校名、校章を残してくれと言うなら分かるが、保護者からではけんかを売って来ているようなものである。本当に良くしたいのであれば、もう少し良い統合の仕方があるのではないか。こうなるなら高知南中高校は閉校して、中高一貫校が高知市で必要なので、高知西高校につくりますということであれば話は分かる。私の頭の中では、反対であり前に進んでもらいたくない。</p> <p>だんだん内容的なことより関係者の感情的なことが先に立っていると思う。統合すると高知南中高校も高知西高校もより良くなるという実感が、双方の学校ともつかめていないことが現実である。この統合により両方の学校が生き、より良い生徒が育ってくるような自信が持てる内容になっていない感じもある。その上に関係者の感情が入っている。</p> <p>難しいと思ったことは、高知西高校の一番近くにある、西部中学校との関係である。西部中学校からは高知西高校に毎年多くの生徒が進学している。生徒たちや関係者は、高知西高校に中学校ができた時にどうなるか困っているのが現実である。高知西高校に中学校ができることによって、良かったと言える内容を感じるような内容に絞ったうえで進めてもらいたい。公立の中学校であるので、私立学校の様な学習内容で進めると問題があると思う。しかし、グローバル教育を行うので、今の公立中学校のような状態ではあまり成果が上がらないと思う。統合する事の内容的なものをすごく絞らないと不安に思う。結局、中学校をつくったが、あまり良くなかったじゃないかという結果になるのではないかと思っている。高知南中高校関係者も高知西高校関係者も自分の学校を愛し、自分たちが築き上げた学校との強い思いがある。神経を逆撫でするようなことがあれば、統合を受け入れられないとの思いは当然である。双方がこれなら統合の意味があると思えるように、もっともっと話を煮詰めた上で、新聞等の周りの雑音的なものをもう少し抑えながら、両方のことを考えていかなければ、片方に足を引っ張られるようなことが起こる。統合した時の子どもたちが、計画の様にどれほど育つのか不安である。今の自分は、統合したらこのような生徒が育つと、自信を持って知り合いに説明することができない。何となくおぼろげである。内容を良くするために、私立学校の様に知識の詰め込みになってもいけない。自主性を湧き立たせるような教育方針なども</p>
--------------	---

事務局	<p>っと聞かせてもらいたい。そうすれば私はもう少し理解できるかもしれない。グローバル教育の内容についてもう少し説明をしたい。小学生の時代は、どうして車は走るのか、どうして飛行機が空を飛ぶとか等いろいろな事に非常に興味をもっている。今までの日本の教育では、中学校になると必要な知識量が増え、一定知識を身につけないと次に進めない。高校になると更に必要な知識が増える。知識量を大学入試センター試験等で確認されている。これが日本の教育のシステムであることが現実である。ところが、現在の企業や大学でそのような人材では十分ではないと言われており、教育再生実行会議でも打ち出されている。自ら考える。興味を持ち自らで調べる。自らで調べて興味をもっている。もっと知りたいと思う。そのような仕組みをつくっていけないか、そのような仕組みが、グローバル教育、国際バカロレア教育が提唱する教育理念である。単に数学のピタゴラスの定理や三平方の定理のような公式に当てはめただけというのではなく、いろいろな角度から、なぜこのような式ができたのかということを生徒同士が考えるというような教育である。今までは、時間がもったいないということであまりやってこなかった。それでは単に覚えることだけになる。興味をしっかりと引き出しながらやっていきたい。教育の内容自体は、今までと違う訳ではない。進め方を変えていこうということである。しかし、一定の知識は必要であるので、その部分は家庭学習をしっかりとやらしてもらわないといけない。まとめる力も付けていかなければならないので、そのようなプログラムも入れていく。自分で発表する時間もしっかりと確保していく。自分で興味を持ち、調べて考えていくことでより活用力を身に付けていくことを考えている。この様なことができる生徒を大学も求め、推薦入試やAO入試などの枠が拡大している。自分でまとめ、自分で発表できるような力を何回かの面接で見極め、合格者を決めたいとしている。東京大学や京都大学もそうであるが、先んじているのが、大阪大学、岡山大であり、枠を広め受け入れようとしている。また、私立大学もそのような生徒を求めている。このように日本の教育の流れが変わってきているので、そのようなゴールを目指していきたい。</p>
校友会代表	<p>5月31日の議事録の中で「校友会のことは校友会同士で話をしてください」という発言があった。7月17日に高知西高校で話し合いがあったが、その時の質問対しての回答は今日と同じである。その時に資料2（第6回教育委員協議会資料2）というものをもらった。高知南中高校の保護者の質問への回答である。昨日の新聞の記事を読んだ時に、高知西高校で会を開いた時の内容が高知南高校の関係者に伝わっていないのではないかと思った。情報が伝わっていない状態では、会議の中で感情的にもなる。そうすると新聞に出ていた様な発言が出てくるのは当然である。感情論になっても相手方の考え方が分かっていると対応が変わってくる。我々は17日に高知南中高校の資料をもらっていたので、直接会っていない相手方の考えていることが確認できた。そのようなことはしているのか。していないと思うが。</p>

教育長	17日の資料がどのようなものかがわからないが、高知南中高校と高知西高校への提出資料は同じである。
校友会代表	高知南中高校の保護者の方々の質問に対する答えの資料である。私の質問は、高知西高校の保護者、国際交流推進会、校友会の意見がレジメとして高知南高校の関係者に渡されているのかということである。
教育長	その資料は、高知南中高校との1回目の協議会で質問書が提出されたので、高知南中高校との2回目協議会で文書において回答したものである。
校友会代表	私が言っているのは、高知西高校の国際交流推進会、校友会、保護者の意見や質問に対する答えなどのレジメを、高知南中高校関係者に渡しているのかということである。
事務局	17日に渡したのは、高知南中高校保護者から質問書が来たのでそれに対しての回答を返したものである。134項目あったので渡したものは論点となっている質問の概要版であり、概要版はそれぞれの各会の代表者に渡したが、代表者以外が持っていなかったため17日の会で学校の方がコピーをして渡したものである。高知西高校の質問を高知南中高校に渡しているかということであるが、高知西高校から文書で質問状をいただきおらず回答書をつくっていないため、高知南中高校には渡していない。
校友会代表	我々に質問事項を文書で提出してくれと問い合わせたことがあるのか。質問書として文書で提出すれば回答するとの話なのか。
事務局	出してくださいということではなく、高知南中高校の質問を取りまとめたものが提出されたものであり、我々から提出してくれとは言っていない。
教育長	文書で回答したのは、高知南中高校から134項目の質問書の提出があり、文書で回答して欲しいとの依頼があったので、文書で回答したものである。
校友会代表	前回も同じ質問をしたが、今回の計画の一番の動機は何か。一番の骨格は何か。
教育長	これまでも答えてきたが、大きく言えば、高知県、この高知南中高校と高知西高校との統合で言えば、高知市周辺部の高校の教育環境を充実させることが一番の目的である。なぜかと言うと、これから生徒数が減って行き、今のままの学校体制であれば、それぞれの学校の学級数を少しずつ減らすことになる。そうするとそれぞれの学校において教育環境が悪化していく。それは避けたいということである。
校友会代表	前回と同じ回答であるので質問を終わる。
校友会代表	昨日の新聞を見て、びっくりしている。生徒も傷付いている。親のけんかで子どもが悲しむ状況である。高知南中高校も高知西高校も両方が傷付く。新聞でこれほど傷付く。高校野球の学校紹介の記事の中で「閉校をばねに頑張ったら、結果を残せば、もしかしたら教育委員会が考えを直してくれるかもしれない」との記事があった。翌日には訂正で閉校ではなく統合であるという記事が出た。新聞に記事が出ただけで、生徒がいかに傷ついているか。昨日の新聞もそうである。やり方が下手である。何回も会を開いていないうちに、校名をどうするかということになり、高知西高校も校名を変えたくない校歌も校章も変え

教育長	<p>たくない、高知南中高校も変えたくない、場所も変えたくないと言うしかなくなっている。向こうの学校と声を張りあってけんかをして、両方が喧々譁々しては良い学校にならない。4月からの新体制で結果を出さないといけないのかもしれないが慌てている。そのために新聞記事で傷付いたり、暗闇が続くような統合はないと思う。高知南中高校の保護者会、校友会も校名を変えたくない、なくしたくない思いは同じである。高知西高校も同じである。校名は統合してから両方の関係者が話してくれでは話にならない。これから何回も会をしても結果は同じである。私は、出身の小学校が廃校になり、中学校も廃校になり、そして最終学歴の高校まで名前がなくなるということになるのだろうか。統合した後、校名を考えることについては、今のこのメンバーでは対応できない。皆さんの思いは受けとめている。しかし、将来の中学校及び高校に進学する生徒の学習環境をいかに良くしていくかを考えこの案を出している。まずは、この事を考えてもらいたい。校名等は大事な問題であるが、統合の方向が決まってから議論させてもらいたい。</p>
校友会代表	<p>昨日の新聞が出るまで、高知西高校は、校名、校歌については、じっと我慢していて統合の話に乗ってきた。しかし、昨日、突然、統合するのであれば、校名、校歌を変えてくれ、50年の歴史のある校歌を変えてくれということが新聞記事に出たということには、校友会としては黙っておられない。そうなれば統合に賛成できないことになる。声を荒げないでいように、事務局の方で話をして子どものためになり、お互い納得のいく、私立学校より良い素晴らしい高知西高校にして欲しい。このままでは何回話しても同じである。良い統合案ができない。たった3回の会でけんかになっている。「南高校を侮辱している」とあったが、我々は全然侮辱していない。このような意見が出ることはおかしなことである。高知新聞が閉校と出すぐらいである。しっかりしてほしい。</p>
校友会代表	<p>これから教育内容がどうなるかが見えてこない点で我々は不安になっている。次回はもう少し教育内容についても踏み込んだ、我々が理解しやすいような資料の提出もお願いしたい。</p>
事務局 委員長	<p>検討させていただく。</p> <p>最近の教育委員会ははじめ、県の議論の仕方は全面公開である。その中には、いろんな方がおり、いろいろな方の意見を聞いている。出された意見については、我々はコメントする立場ではない。現在は公開での議論が原則であるので、いろいろな報道があるかもしれない。</p> <p>これからの少子化の中で、また、津波対策、国際化の状況の中で、本県の県立高校も何らかの振興対策をたてなければならない。そのような思いで取り組んでいる。その中で統合の話も出てくる。お互いに犠牲をしいられることも出てくると思うが、我々も誠心誠意を尽くして議論を進めているので理解をお願いする。</p>

○高知西高等学校関係者 保護者代表との意見交換

保護者代表	<p>本日の資料について、先週の木曜日に概要説明を受けた。驚いたのは、高知南中学校の生徒が、学習面と生活面を考慮しながら適性検査で高知西高校に進学できることである。これでは、その他の公立中学校の生徒にも影響が出る。通常の高校入試を受検して同じスタートラインに立ち、高校生活を始めることが高知西高校の生徒にとっても、高知南中学校の生徒にとっても一番良いことであると思う。このような案が出るということは、アメとムチのようで、取引統合のように感じる。簡単にレールを敷くことはできるが、子ども自身のため良くないと思う。</p> <p>先ほども話に出たが、校章や校歌についても、高知西高校のものを絶対変えてはいけない。変えたとしたら、併設の中学校のものを高知南中高校の方々を中心に希望を与えてあげたらよいと思う。併設型の中高校は、県教委が東部・中部・西部に各一校つくったものである。以前から、中部の中高一貫校の成果があまり上がっていないことを風評で聞いている。そのためこのような案になったのではないかと思う。噂ではあるが、中部の中高一貫校は大学の指定校推薦枠が少ないと聞いたこともある。併設の中学校へ通っていても大学進学のため高知小津高校へ、音楽が好きだから高知丸の内高校へと進学するというような、いろいろな選択肢があるので、高知南中学校生は一般入試を経験して高知西高校に入ってもらいたい。高校入試は、エネルギーがかかることである。高知西高校自体はそのまま残して欲しい。高知南中学生が一般入試を受けて入学させることはできないのか。</p>
教育長	統合前の高知南中学校の60名の生徒のことを言っているのか。
保護者代表	そうである。
教育長	<p>本人の意思が最優先である。他の学校を受検したいとなれば、本人の意思を最優先する。</p> <p>今、示している案の大前提は、子どもたちの教育がきちっとできることである。その上で、高知南中高校の関係者と話し合いをしている中で、「たたき台」では、高知南中高校の生徒がいなくなって統合する形なので、もう少し統合の実感があるような統合の仕方がないかという話があった。先ほどの大前提を念頭に置き検討したのが今日示した別案であり、この別案でいかがでしょうかということである。理解していただきたい。</p>
保護者代表	<p>昨日の新聞が話題になっているが、校名と校歌を変えることに対する意見は、団体としての意見なのか、個人の意見なのか。発言した時の状況が分からないので質問したい。</p>
教育長	<p>それぞれの団体の代表として出席されているので個人の意見ではない。我々は、意見交換をさせていただいているので、そのような意見があり、受け止めさせていただいたということである。</p>
保護者代表	これに対して県教委はどのような回答をしているのか。
教育長	先ほども回答したが、基本的には、校名、校歌等については統合が決定してか

	<p>ら協議してもらいたい。校名を変えないことも含めて予断を与えるようなことは申し上げられないと答えている。</p>
保護者代表	<p>「両方の学校が良くなる実感が湧かないといけない」との意見があった。これは私も同感である。入学する生徒は、今の小学低学年の子どもである。小学低学年の段階では自分の意見があまりなく、親の意見で受検をさせるとか、公立中学校に進学させるとかを決めていると思う。親の意見が大部分であると思う。県教育委員会が併設中学校を立ち上げるにあたっての顧客である小学低学年の保護者や園児の保護者の方々にどのようなアプローチをしていくのか。その際には理念が必要である。どのような理念があるのか。17日の会で、口を酸っぱくなる位言ったが、その際、企画監に質問したところ理念などはこれから考えていくとの回答であった。今日は、教育長に理念について伺いたい。</p>
教育長	<p>理念と言うと、補足資料1にも書いてあるが、まさに高知県のグローバル教育を引っ張っていく高校をつくろうとしていることだと思っている。</p>
保護者代表	<p>もう少し具体的な文言にしてもらわないと、この資料を見るのは教育関係者だけではなく、何も知らない子どもの塾選びをどうしようかと考えている保護者である。20代30代の保護者に分かるようにアプローチしていかなければ良い生徒は集まらない。</p>
教育長	<p>説明の仕方については考えて行く。具体的には先ほど事務局が説明したような課題探究型の教育を進めたいと考えている。</p>
保護者代表	<p>課題探究型の話は大変よいお話でもっと聞きたいぐらいであったが、しっかり理念をまとめ上げてもらいたい。入学してくるのは園児や小学生の低学年であるので、その保護者の心に響くようなものを打ち出さないと。小学校5・6年生頃から塾に通い始めるが、結局その子たちが進学するのは土佐中学校、高知学芸中学校なりであり、現実問題としてこれから何十年経っても中学受検で私立学校を選択することは変わらないと思う。どのランクの生徒を引っ張ってくるのか。土佐中学校、高知学芸中学校の次の学校を受検する生徒を引っ張らないと進学拠点校としての更なる大学進学の実績を上げることは無理であると思う。どの層にアプローチしたいのか。顧客はどの層なのか。そこを明確にしていかないと絵に描いた餅で終わってしまう。しっかり理念をきちっと打ち出してもらいたいと思う。</p>
	<p>先ほど、委員長が、「統合となればお互いに犠牲をしいられる」と言った。我々は、永年PTA活動を経験しているので言っている意味は良く分かる。私自身、統廃合を経験しているのでとても良く分かる。しかし、一般の保護者の方への説明も必要である。一般の保護者は、新聞報道などで知ることが多い。高知新聞の果たす役割は大きい。教育委員会として、マスコミに対する対策もしっかりとってもらいたい。高知南中高校の保護者は、物理的になくなるので悲しい気持ちの部分が多い。高知西高校は物理的に残るので、今までは気楽に構えていた。今までは、吸収合併でこちらに来るならどうぞという感覚であった。しかし、このような新聞記事が出ると、話が違うのではないかと。そ</p>

	<p>うなると統合する前から、けんかの状態になる。これは、新たな高校をつくる上で、非常にマイナスになり、生徒たちの不利益にも即つながら。もう少し上手なやり方が最初にあったのではないかと、今となって思う。両校の保護者同士、校友会同士がけんかにならないように、教育委員会は、ひと汗もふた汗もかいて努力してもらいたい。教育長が主になってやってもらいたいと切に思う。先ほどから、まず統合を両校が承知してから後に、校名を検討して欲しいと言われているが、高知西高校として保護者、校友会、国際交流推進会が一致してそれは認められない。そのことは、今、はっきりと教育委員会に伝えておく。校名等については、統合を両校が承知してから検討するものではない。そのことにしっかりと高知南中高校関係者にも教育委員会の方から説明してもらいたい。ひと汗かいて欲しい。</p>
教育長	<p>校名を決めてからとなれば、高知南中高校も皆様と同じ考えであるので、一切話が前に進まないことになる。両校の関係者に理解をもらいたい。将来の子どもたちの教育環境の充実のために、いろいろな思いがあるのは痛いほどは分かっているの、そこはぐっと飲み込んでもらい、まずは、そのような環境の充実に向けて合意をしていただき、その上で校名等を話し合う場をもつ手順を踏んでももらえないかをお願いしたい。</p>
保護者代表	<p>言っている意味は良く分かるが、今のままなら話し合いの席に着くとけんかが始まる。</p>
教育長	<p>そうならないように、中に入って汗をかかせてもらう。</p>
保護者代表	<p>高知南中高校も高知西高校も巻き込まれている。この様な話があり、より良い学校をつくるのであれば、汗をかこうと思っていた。私たちがかく汗の10倍も20倍もかいてもらいたい。統合を飲んでくれたら、どうぞと丸投げされるのは困る。</p>
教育長	<p>丸投げするつもりではない。我々が主体になる話である。責任をもって進めて行く。</p>
保護者代表	<p>給食とか寮や弓道場についても検討をお願いしたい。</p> <p>別案で高知西の併設型中学校に入学した60名の生徒は基本的にグローバル教育科に進学するが、高校から入試で入学する生徒にもグローバル教育科への門を開いて欲しい。郡部の生徒の中には、中学校から高知西中学校に通学することが物理的に難しい生徒もいる。高校からの入学になると高知西高校に入学してグローバル教育科へ進みたいと思う生徒もたくさんいると思う。今までも高知西高校の英語科は高校入試から40名集まってきている。併設中学校以外の中学校からもグローバル教育科への道を付けてもらいたい。皆さんが心配していることは、高知南中学生が高知西高校の普通科に内進することであるが、高知南中学校に入学すると、悪くても高知西高校に入学できると勘違いする方がいるかもしれない。高知南中学校を卒業する生徒は、自由にいろいろな高校を受検してもらい、その中に高知西高校が選択肢としてあればそれは構わない。高知南中学生は自由に受検してもらいたい。</p>

教育長	グローバル教育科にもっと外進生を入学させて欲しいとのことであるが、グローバル教育科の定員 60 名で、併設中学校から進学してくる生徒数である。今の案ではグローバル教育科に外進生は入らないことになっている。ただ、内進生で、グローバル教育科に進まない生徒もいると考えられるので、その補充という形での外進生の募集はあると思う。高知南中学校の統合前の生徒の統合先である高知西高校への進学については、先ほど説明したように我々としていろいろな話を聞いたうえで検討させていただいた案であるのでご理解して欲しい。
保護者代表	このことはもう決まっているのか。統合を飲んだ後の話し合いには上らないことであるのか。
教育長	高知南中高校の関係者からは、これ以外の案も提案されたので、それについては検討すると答えている。我々としては、今の段階で考える最善案はこの案だと思っている。
保護者代表	どのような案が高知南中高校から出たのか。
教育長	高校同士がある時期に一度に統合する案とか、高知西中学校 60 名と高知南中学校 60 名の案に対して、統合までは高知南中学校だけで 120 名で良いのではないかとの案が出ている。
保護者代表	話にならない。
事務局	高知南中高校の保護者が言っていたことでもあるが、高知南中学校の設立当時は非常に不安を感じる場面もあった。学級で子どもたちが不安定であった時期があったことも事実である。そのような時期を経て、現在の全国学力学習状況調査等の結果では、県立三中学校は全国の平均を大幅に上回っている。基礎的な学力、活用力も身に付いている。県立三中学校に関しては、県内の中学校に先立って、自分の学校の立ち位置を示し、細かい数値もHPで公開している。広報が足りない面もあるが、見てもらえればと思う。
委員長	学力対策について、人間的な指導も含めて徹底した指導を、高知南中学校で学ぶ段階からして、他の入学生に負けないぐらいの学力を身に付ける対応をしていく。
保護者代表	高知西高校と高知南中高校の校風は、水と油である。交わるかと危惧している。
委員長	そのようなことが仮にあるとすれば、高知西中学校と高知南中学校の教員の交流や教育センターの指導主事を配置するなど、いろいろな工夫をして校風の差がないようにし、高校に入学できるような対策が必要であると思っている。
保護者代表	たたき台から別案に大きく変更した理由は何か。
教育長	大きく二つある。一つは、統合を実感できる形の統合案を示すこと。もう一つは、実質的な問題として、たたき台なら平成 29 年に中学に入学した生徒は、5 年間に渡って下級生がいない状態が続くので、そのことによる教育環境への影響を心配される。それに対して、別案なら下級生のいない時期は 2 年間と短くなり、下級生がいない状態による教育環境への影響が緩和できる点である。大きくこの 2 つである。

保護者代表	<p>最初のたたき台案は、完全に閉校であり、高知南中高校は高知南中高校、高知西高校は高知西高校であった。下級生がいないことも分かるが、両校が交わるということについて懸念している。今後、この部分については話し合ってもらいたいと思う。たたき台なら高知南中高校は閉校であるので、我々高知西高校としては、中身が変わる訳ではなく中学校が併設されて加わると感じていた。今日、別案を見て、不安な部分が出てきた。今まで高知南中高校の関係者の理解を得てからと思っていたが、校名、校歌を変えるような話なら、我々高知西高校の思いが入っているのだろうかと感じる。一つの学校がなくなるので、配慮はしていかななくてはならないが、子どもの将来がどうなるかを考えることが我々の努めであり、本当に別案が良い案であるか非常にクエスションである。文句を言えば、要望が通るのであれば、我々も文句を言っていく。しかし、我々は、それはしたくないし、けんかもしたくない。校名も校歌も変えろと言われると我々は皆怒る。それはぐっとこらえて、子どものためにより良い道を探していく会にしなければならないと思う。強く言えば、要望が通るのであれば我々も強く言っていかなければならない。</p>
教育長	<p>別案にしても、高知西高校の皆さんの理解を得ることが必要である。子どもの教育に影響を与えないことであり、子どもの教育を充実することが大前提である。その中で両校が納得していただけるギリギリの線で検討して示したのが別案であると思っている。</p>
保護者代表	<p>今の高知南中高校を残すことに不都合があるのか。いまのままではいけないのか。高知南中高校の関係者とは、次元が違うし、視点が違う。</p>
教育長	<p>統合の必要性については、1回目の会で説明した。一つは、高知市及びその周辺地域の高校の教育環境を充実させることであり、具体的に言うと、このまま生徒数が減少していくなかで、このままの学校数を維持すると各学校の学級数が減っていくことにより、各学校の教育環境がそれぞれ悪くなっていく。そのようにならないためにも統合して、定数を減らしていくことが必要である。もう一つは、高知南中高校に関しては、港に直接面しているのも、南海トラフ地震のときの津波による被害が心配されている。特に長期浸水が予想されている地帯である。生徒の命を守ることに言え、一時避難所になっているので、ぎりぎり大丈夫であると思うが、学校再開には長期間要するとか学校の教育環境を存続するに対して大きな心配がある。あの場所での設置というのはできるだけ避けたい。</p>
保護者代表	<p>そして、高知西高校との統合がなぜかと言うと、今まで進めてきた高知西高校での英語教育と、これまで取り組んできた高知南中高校でのグローバル教育を一緒にして上がる効果、高知南の中高一貫教育の成果を統合の学校で活かせるのではないかとということで統合をお願いしている。</p>
保護者代表	<p>県教育委員会には、高知南中高校関係者が快く統合案に賛成していただけるように努力していただきたい。我々も快く統合したい。しかし、今のままではけんか腰になる。心を解す努力をして欲しいと切に思う。</p>

保護者代表	我々は、けんかをするつもりはない。より良い方向を見出すということで、冷静に考えていきたいと思う。それに対して県教育委員会の皆さんもきちっと回答を出して欲しい。中立的な立場で、しっかりと考えていただきたい。そうでないと我々も文句を言わなければならなくなる。しっかりしたものを出して欲しい。
委員長	貴重な意見をいただいた。これまでの高知西高校は教職員、地域、保護者の皆様方が協力していただきながら大きな実績を上げてきた。高知南中高校も実績を上げてきた。お互いに実績を上げた学校同士が統合することにより、更により良い学校をつくっていくということが子どもたちにとってより良いことになるという観点で検討をしている。きれい事だけでは済まない点もある。高校を出るときの進路保障もしていかなければならない。しっかりとした学力、体力を付けなければならぬ。徹底した教育もしていかなければならない。関係者の皆さんにはたくさんの思いがあると思うが、最終的にはその点で、我々も努力しながら、お互いが納得いくような形でご理解、ご協力をお願いしたい。